

絵画・彫刻・工芸の調査

1969年度美術工芸研究室の調査 2

南都仏教絵画の研究 昨年度にひきつづき、中世の南都仏教絵画と南都高僧像とに主眼を置いて調査研究をおこなった。本年度に調査した主な寺社には、奈良東大寺・薬師寺・法隆寺・西大寺・植槻社、神奈川称名寺・光明寺、京都清涼寺、大阪久米田寺などがある。

この他、文化庁の指定および修理事業に関連して、奈良薬師寺、京都醍醐寺・東福寺・教王護国寺の諸作例について調査研究をおこなった。

堂塔壁画の研究 わが国絵画史のなかで重要な一面をしめる壁画の図像と技法について調査をおこない、同時に文化庁のおこなう模写事業の基礎資料の整備に資するもので、本年度は、模写中の大分富貴寺大堂について、同寺および京都堂本家の堂本印象模写図の調査をおこなった。その他、修理中の京都大原三千院内部とくにその舟底天井と来迎壁についての調査をおこなった。

仏像納入文書の調査研究 昨年度につづいて、奈良円成寺南無仏太子像・伝香寺南無仏太子像・金峯山寺金剛力士像・聖徳太子像・西大寺釈迦如来像、京都寿徳院阿弥陀如来像・法園寺釈迦如来像、岐阜安国寺瑞巖和尚像、長野上島観音堂十一面観音像・八坂藤尾観音堂千手観音像、福井意足寺千手観音像、滋賀浄信寺地藏菩薩像、佐賀高城寺門鑑禪師像について調査し、これによって本研究の調査段階をほぼ終了した。

南都造像史の研究 昨年度に継続して、中世の南都における仏師にかんして検討し、奈良長岳寺阿弥陀如来像をはじめ、長弓寺・旧白米密寺・品善寺、大分永興寺などの諸像を調査するとともに、奈良法隆寺の夢殿・地藏堂・護摩堂・北室院・宝珠院、薬師寺講堂などの諸像についても調査した。

写真測量による仏像実測調査 奈良法隆寺講堂薬師如来像・長岳寺阿弥陀如来像・円成寺大日如来像・薬師寺聖観音像、京都広隆寺講堂阿弥陀如来像について、写真測量による実測調査をおこない、主として頭部（OAE直角）の図化によって、時代別基準作例の様式比較を試みた。

その他の彫刻調査 奈良丹生川上神社、京都六波羅蜜寺・舞鶴円隆寺・舞鶴万願寺の依頼によって、各社寺の諸像の調査をおこなった。

工芸作品の作風と技術展開の研究 本年度は染織分野に限り、友禅染をとりあげて、祖形と技術の展開を研究し、また更紗染や琉球の紅型と比較し、史料を整備した。

能装束の研究 江戸時代における大名家に蔵された能装束調査の一環として、まず備前藩主池田家伝来の能装束（岡山美術館蔵）の455領を調査し、写真撮影した。